

白石町立小学校の統合再編パターン

資料
51

●Aパターン：3校

組合せ	児童数	学級数	学校の位置
有明東小学校	282	11	有明中学校
有明西小学校			
有明南小学校			
須古小学校	383	12	白石小学校 (改修または新築)
六角小学校			
白石小学校			
北明小学校	220	7	福富小学校
福富小学校			

●Bパターン：3校（白石地域の小学校の位置を別の場所とした場合）

組合せ	児童数	学級数	学校の位置
有明東小学校	282	11	有明中学校
有明西小学校			
有明南小学校			
須古小学校	383	12	町の中心部付近を用地買収し、 新築
六角小学校			
白石小学校			
北明小学校	220	7	福富小学校
福富小学校			

●Cパターン：2校

組合せ	児童数	学級数	学校の位置
有明東小学校	282	11	有明中学校
有明西小学校			
有明南小学校			
須古小学校	603	18	白石小学校 (改修または新築)
六角小学校			
白石小学校			
北明小学校			
福富小学校			

●Dパターン：2校（白石・福富地域の小学校の位置を別の場所とした場合）

組合せ	児童数	学級数	学校の位置
有明東小学校	282	11	有明中学校
有明西小学校			
有明南小学校			
須古小学校	603	18	町の中心部付近を用地買収し、 新築
六角小学校			
白石小学校			
北明小学校			
福富小学校			

●Eパターン：1校

組合せ	児童数	学級数	学校の位置
有明東小学校	908	27	町の中心部付近を用地買収し、 新築
有明西小学校			
有明南小学校			
須古小学校			
六角小学校			
白石小学校			
北明小学校			
福富小学校			

【将来的に】

組合せ	学校の位置
1校への 統合再編	町の中心部付近に新築した学校を使用

①A～Dパターンの児童数

- ・有明3小＝令和8年度の予想数を使用
- ・白石4小及び福富小＝令和10年度の予想数を使用

②Eパターンの児童数は、令和8年度の予想数を使用

③学級数は、特別支援学級の児童数の予測がつかないため、全ての児童数を通常学級の児童数として算出している。

④有明3小及び福富小は、学級数が適正規模を満たしていないが、単学級が予想される学級の児童数は38人程度であり、2学級（41人以上）になる可能性もある。

※各パターンのメリット、デメリット等については次頁より記載しています。

※小規模校及び大規模校のメリット、デメリットについては、第2回審議会の資料17をご覧ください。

Aパターン 3校①

【メリット】

- ・有明中学校の施設は、比較的新しいため活用できる。
- ・通学支援が必要な児童は、比較的少ない（予想では40人程度）。
- ・適正規模に満たない学校が発生する可能性がある。
- ・将来的に1校への再編を考えた場合、再度、町の中心部付近への建設費用がかかる。
- ・福富小学校の施設が老朽化しており、大規模改修工事を行う必要がある。

【デメリット】

●有明3小学校の統合再編（令和8年度開校予定）

対象校	令和元年度		令和8年度（予想）	
	児童数	学級数	児童数	学級数
有明東小学校	143	6	108	6
有明西小学校	141	6	104	6
有明南小学校	129	6	70	6

⇒

学年	令和8年度（予想）	
	児童数	学級数
1年	38	2
2年	38	1
3年	54	2
4年	52	2
5年	49	2
6年	51	2
計	282	11

学校の位置	現有明中学校
選定理由	有明地域のほぼ中心
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・施設が比較的新しく、必要最小限の改修工事で済む。 ・ほとんどの地域が、通学距離（4km）の範囲内に収まる。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・統合再編後に早い段階で、各学年単学級になる可能性がある。 ※11学級と適正規模を満たしていないが、38人であるため、2学級（41人以上）になる可能性もある。 ・通学距離（4km）圏外の牛間田地区児童の通学支援が必要。

●白石4小学校の統合再編（令和10年度開校予定）

対象校	令和元年度		令和10年度（予想）	
	児童数	学級数	児童数	学級数
白石小学校	167	6	151	6
六角小学校	104	6	89	6
須古小学校	120	6	74	6
北明小学校	148	6	69	6

⇒

学年	令和10年度（予想）	
	児童数	学級数
1年	66	2
2年	66	2
3年	66	2
4年	66	2
5年	52	2
6年	67	2
計	383	12

学校の位置	現白石小学校
選定理由	白石地域の4小学校の中で、校地面積が広い
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・統合再編後に早い段階で、各学年単学級になる可能性は低い。 ・校地面積が広く、校舎等の新築、増築及び改修工事が比較的しやすい。 ・運動場が広いため、別に仮校舎を建設せずに校舎等の建設ができる。ただし、その期間の運動会等は、町総合グラウンド等を利用するなどの対応が必要となる。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・通学距離（4km）圏外の杵島山扱い及び新拓地区児童の通学支援が必要。 ・令和10年度で校舎が建設から45年、体育館が49年経過する。また普通教室等が大幅に不足する予想。現校舎を使用した改修工事ではカバーできず、新築工事が必要な可能性が高い。 ・将来的に1校への統合再編を計画する場合、新築したとしても校地面積が狭いことが予想される。

●統合再編対象外：福富小学校（令和10年度状況）

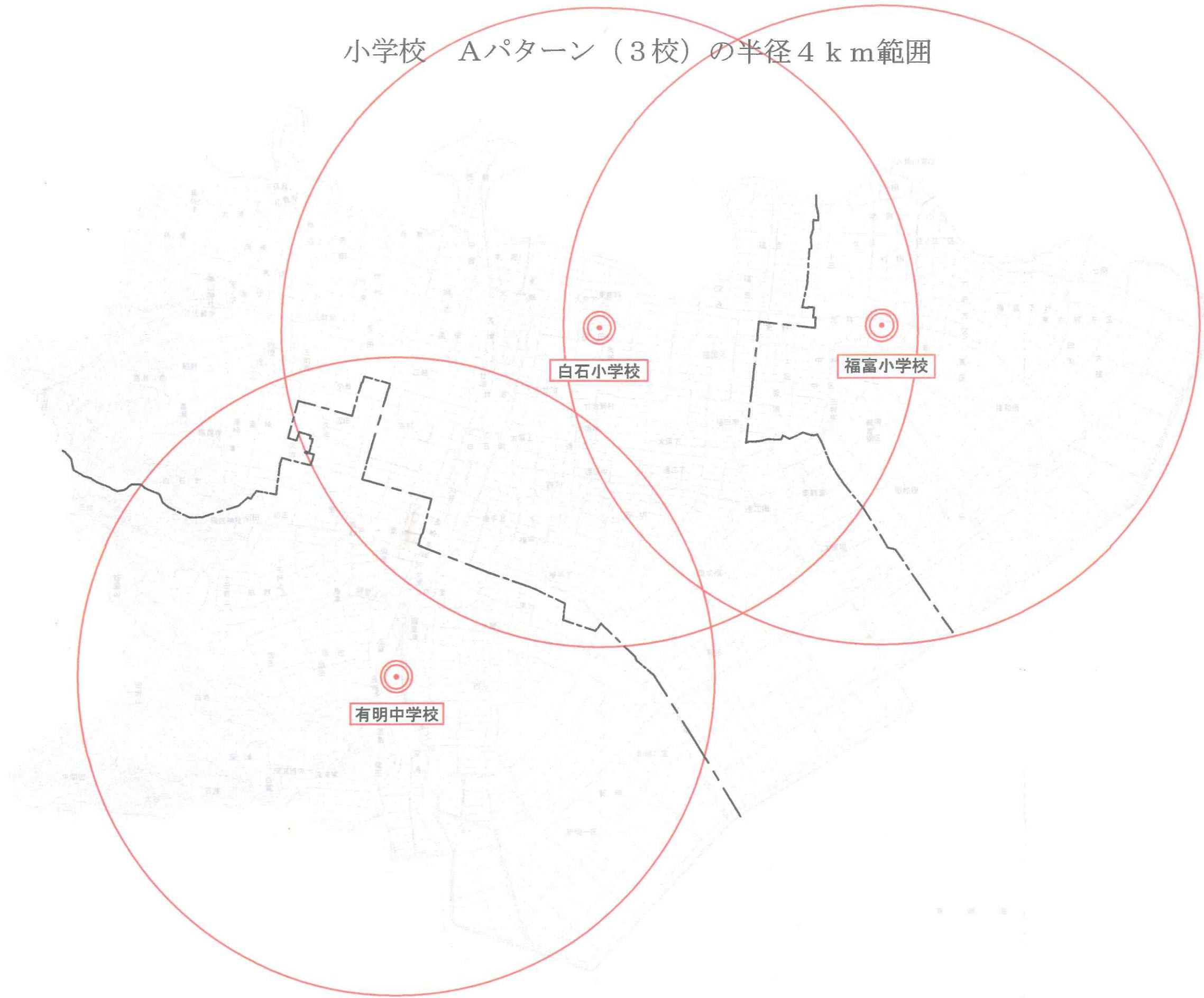
対象校	令和元年度		令和10年度（予想）	
	児童数	学級数	児童数	学級数
福富小学校	247	9	220	7

⇒

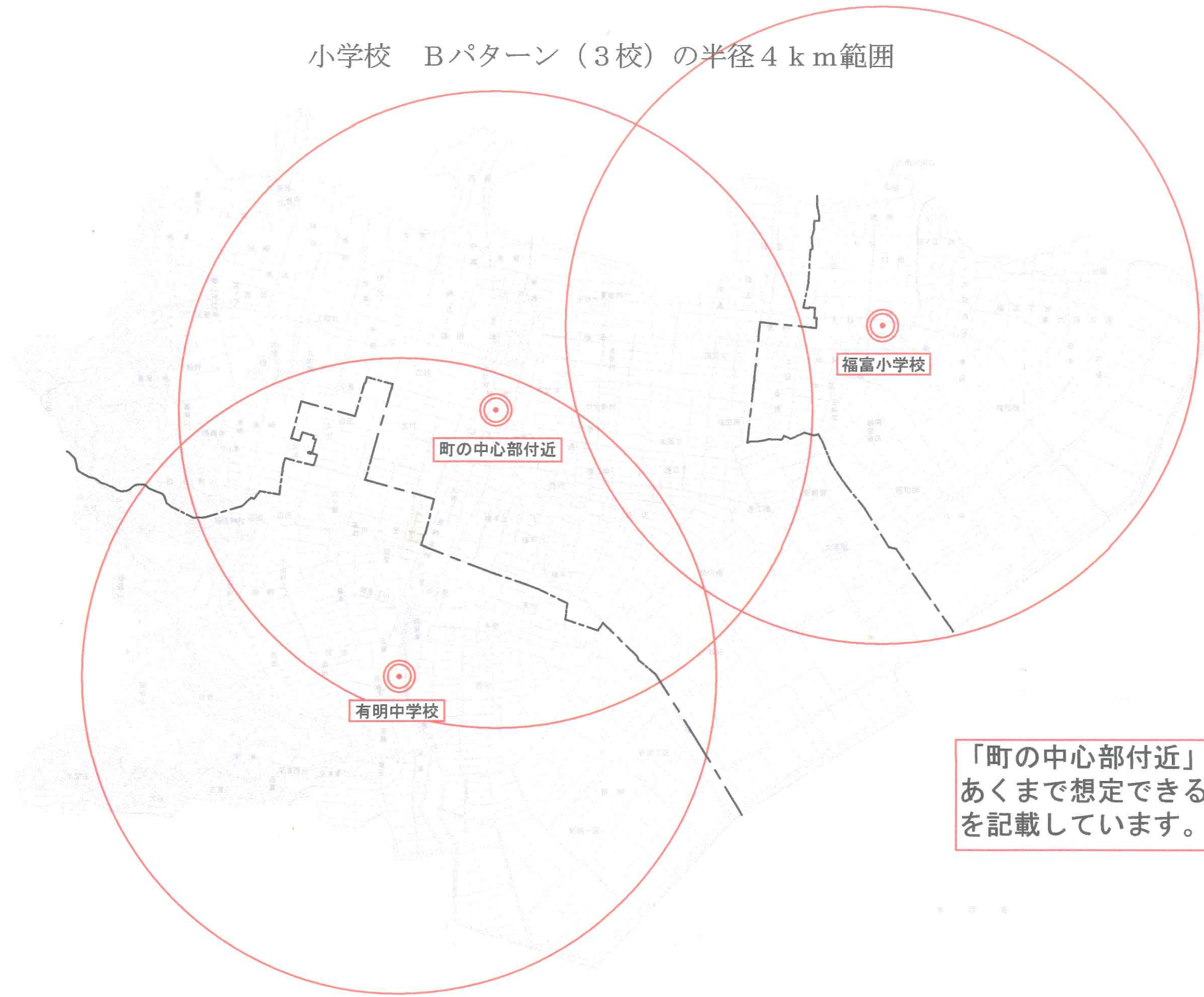
学年	令和10年度（予想）	
	児童数	学級数
1年	37	2
2年	37	1
3年	37	1
4年	37	1
5年	34	1
6年	38	1
計	220	7

メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・令和10年度の時点では、現行のままなので施設改修費は必要ない。 ・早い段階で、全学年単学級になる可能性がある。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ※7学級と適正規模を満たしていないが、各学年30人以上が予想されるため、2学級（41人以上）になる可能性もある。 ・令和10年度で北校舎が建設から53年、南校舎が47年、体育館が46年経過する。維持管理により長寿命化をしていくが、施設が老朽化したとしても、将来的に1校への統合再編を計画する場合は、大規模な改修及び新築工事を行う可能性は低い。

小学校 Aパターン (3校) の半径4 km 範囲



小学校 Bパターン（3校）の半径4km範囲



「町の中心部付近」の位置は、あくまで想定できる位置の一つを記載しています。



Cパターン 2校①

- ・有明中学校の施設は、比較的新しいため活用できる。
- ・将来的に1校への再編を考えた場合、再度、町の中心部付近への建設費用がかかると予想される。
- ・「白石4小学校+福富小学校」の校区面積が広くなり、通学支援が必要な児童が増大する（予想では140人程度）

●有明3小学校の統合再編（令和8年度開校予定）

対象校	令和元年度		令和8年度（予想）	
	児童数	学級数	児童数	学級数
有明東小学校	143	6	108	6
有明西小学校	141	6	104	6
有明南小学校	129	6	70	6

令和8年度（予想）		
学年	児童数	学級数
1年	38	2
2年	38	1
3年	54	2
4年	52	2
5年	49	2
6年	51	2
計	282	11

⇒

学校の位置	現有明中学校
選定理由	有明地域のほぼ中心
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・施設が比較的新しく、必要最小限の改修工事済む。 ・ほとんどの地域が、通学距離（4km）の範囲内に収まる。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・統合再編後に早い段階で、各学年単学級になる可能性がある。 ※11学級と適正規模を満たしていないが、38人であるため、2学級（41人以上）になる可能性もある。 ・通学距離（4km）圏外の牛間田地区児童の通学支援が必要。

●白石4小学校及び福富小学校の統合再編（令和10年度開校予定）

対象校	令和元年度		令和10年度（予想）	
	児童数	学級数	児童数	学級数
白石小学校	167	6	151	6
六角小学校	104	6	89	6
須古小学校	120	6	74	6
北明小学校	148	6	69	6
福富小学校	247	9	220	7

令和10年度（予想）		
学年	児童数	学級数
1年	103	3
2年	103	3
3年	103	3
4年	103	3
5年	86	3
6年	105	3
計	603	18

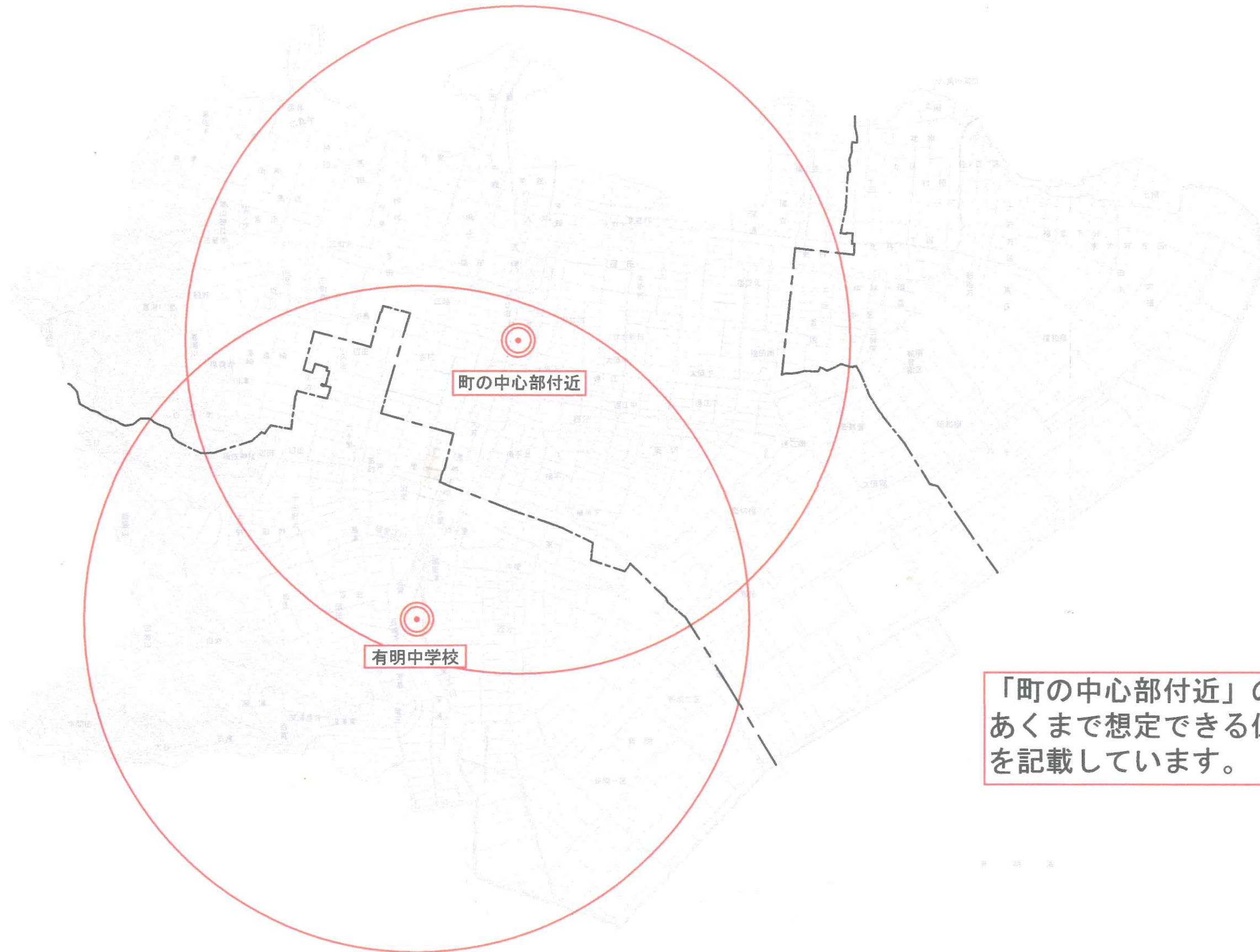
⇒

学校の位置	現白石小学校
選定理由	白石地域の4小学校及び福富地域の小学校の中では、中心部に近く、校地面積が広い。
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・統合再編後に早い段階で、各学年単学級になる可能性は低い。 ・校地面積が広く、校舎等の新築、増築及び改修工事が比較的しやすい。 ・運動場が広いため、別に仮校舎を建設せずに校舎等の建設ができる。ただし、その期間の運動会等は、町総合グラウンド等を利用するなどの対応が必要となる。 ・通学距離（4km）圏外の杵島山治い、新拓地区、福富地域（上区、北区、中区、南区の一部を除く）児童の通学支援が必要。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・令和10年度で校舎が建設から45年、体育館が49年経過する。また普通教室等が大幅に不足する。現校舎を使用した改修工事ではカバーできず、新築工事が必要となる。 ・将来的に1校への統合再編を計画する場合、現白石小学校の校地内に校舎等を新築すれば、町の中心部から外れていることにより、通学支援が必要な区域が増える。また児童数603人の規模を考えれば、教職員数も当然増える。そうなれば、駐車場の面積も広く確保しなければならず、現在の校地面積では狭いことが予想される。

小学校 Cパターン (2校) の半径4km範囲



小学校 Dパターン（2校）の半径4 Km範囲



「町の中心部付近」の位置は、あくまで想定できる位置の一つを記載しています。



Eパターン 1校

【メリット】

【デメリット】

- ・将来的に1校への2段階統合の必要がない。
- ・適正規模を上回る。
- ・校区面積が町内全域になるため、通学支援が必要な児童が増大する（予想では320人程度）

●1校への統合再編（令和8年度開校予定）

対象校	令和元年度		令和8年度（予想）	
	児童数	学級数	児童数	学級数
有明東小学校	143	6	108	6
有明西小学校	141	6	104	6
有明南小学校	129	6	70	6
白石小学校	167	6	146	6
六角小学校	104	6	96	6
須古小学校	120	6	71	6
北明小学校	148	6	92	6
福富小学校	247	9	221	8

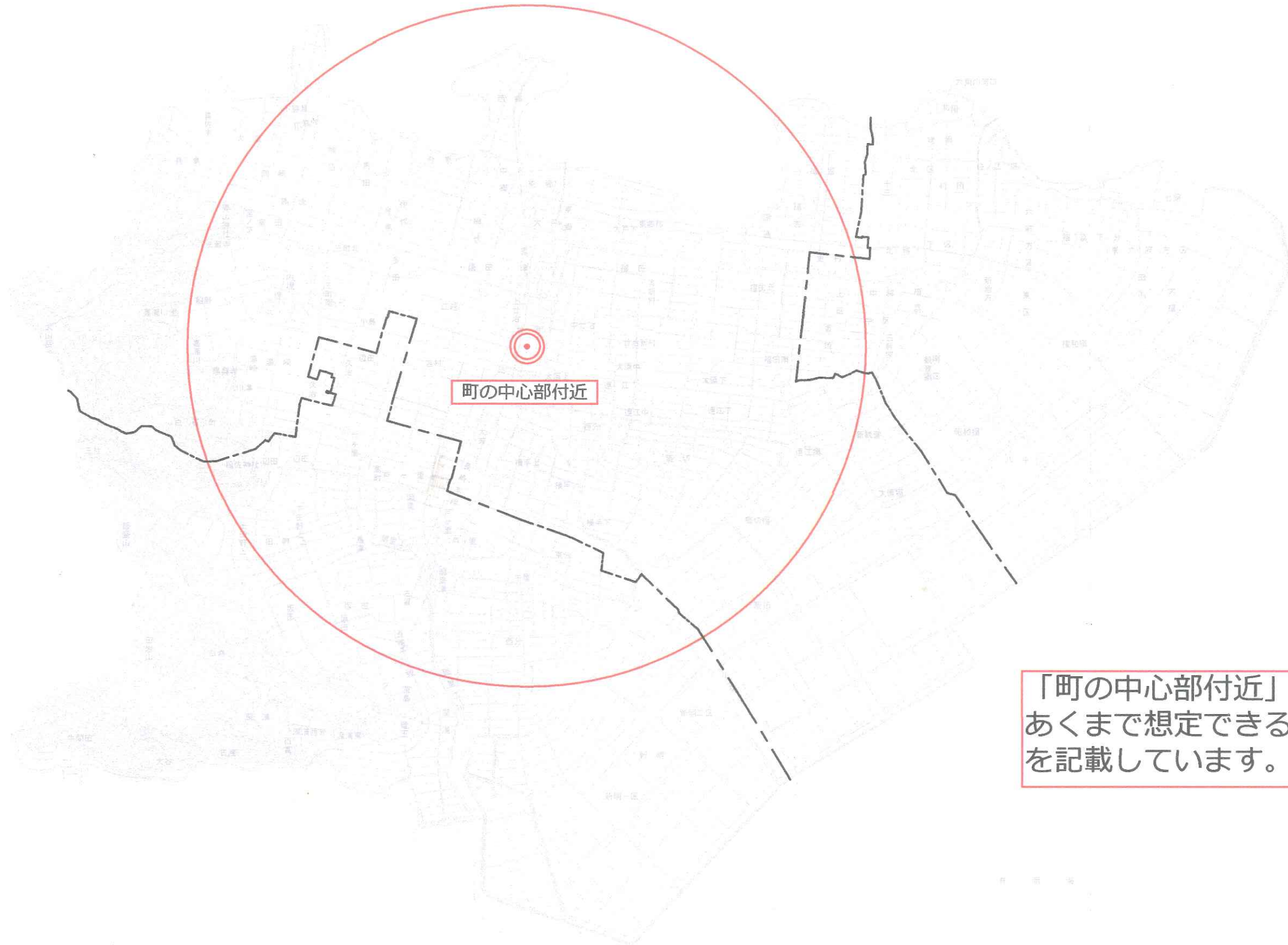
⇒

令和8年度（予想）		
学年	児童数	学級数
1年	141	5
2年	141	4
3年	140	4
4年	157	4
5年	164	5
6年	165	5
計	908	27

10

学校の位置	白石町の中心部付近（新築）
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・将来的な1校への2段階統合の必要がない。 ・新築であり、当分の間、大規模な改修工事の必要がない。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・適正規模を上回る。 ・通学距離（4km）圏外の杵島山沿い、福吉北、新拓、新観音、太原搦、福富地域（上区を除く）、田野上の一部、坂田の一部、室島・竜王、深浦、牛間田、大谷などの児童の通学支援が必要 ・27学級の規模で校舎等を建設した場合、もしも将来、大幅に児童数減となれば、かなりの余り教室が発生することが予想される。

小学校 Eパターン（1校）の半径4 km範囲



「町の中心部付近」の位置は、あくまで想定できる位置の一つを記載しています。